

「地域力をあげる学校の取り組み

修学院中学校での取組」

京都市立修学院中学校
松本 康夫

1. 修学院中学校の概要

位置：京都市東北部左京区に位置し、南は一乗寺、北は八瀬に至る広い校区。校下ぶ、修学院離宮や曼殊院、詩仙堂、一乗寺下り松などの名所、旧跡が多い。
規模：校下には、八瀬・上高野・修学院・修学院第二の4小学校があり、平成19年度は、21学級（含育成学級）、生徒634名が在籍している。

2. 本校のアントレプレナー教育の経緯

平成15年度

第1期 「花脊山の家」宿泊学習を利用したのプレゼンテーション学習の取組

第2期 「地域探検隊」の取組（ラーメン・コンビニ・福祉施設探検隊の組織）地域にしっかり目を向け、課題をしっかりと見つめることを大切に。

平成16年度

第1期 「生き方探究チャレンジ体験」の取組
スキル学習と地域の各種事業所で5日間の勤労体験
第2期 「13歳の提言」の取組（環境・道路交通・産業福祉の3分野）地域をより暮らしやすく住み心地のよい地域にする具体的提言活動

平成17年度

第1期 修学旅行にむけた取組
第2期 地域活性化事業 「修学院ルネサンス」、地域の人々の協力を得て、人々のニーズに合う商品の作成、地元の商店街といっしょに商品の販売を行う取組

平成18年度

第1期 「花脊山の家」宿泊学習を利用したのプレゼンテーション学習の取組
第2期 地域を知り、もっと住みよい町にするための提言活動、外国人にとって暮らしやすい町に、もっと魅力的な公園になど

平成19年度

第1期 「生き方探究チャレンジ体験」の取組
第2期 社会に役立つ商品の開発、高齢者や障害をもっている人々に役立つ商品の開発

3. 取組にあたって留意したこと

各学年の取組では、次の9つの場面を必ず設定し、取り入れることとした。

[知る・学ぶ] インターネットや書籍などで学習に必要な情報を得る。

[体験する] 自分で実際に試し、体験する。

[取材する] 施設の利用者などから実際に聞き取り調査やヒアリングを行う。

[聞く] 専門家の講演などで、プロの知恵・工夫を学ぶ。

[調査する] 実際に自分の目で確かめ、必要な情報を得る。

[考える] 自分たちが得た情報を精査し、まとめる。

[発見する] 課題解決の道筋を探す。

[発表する] 自分たちの発表内容・発表形式を考える。

[評価する] 自分たちのチームの発表の自己評価。他チームの発表の評価を行う。

4. 地域との連携と評価

地域活性化事業「修学院ルネサンス」の場合
協力団体

一乗寺商店会・商店街、修二社会福祉協議会、修二少年補導委員会、校下小学校、修学院中学校PTA、地域の工芸家や地域のみなさん、
地域の評価

・「協力させてもらうという立場」から「一緒に取り組む立場」へ

・「来年はどんな取組になるのですか」高まる期待

5. 今後の課題

社会の変容（発展）から学ぶこと

一人ひとりの教職員が社会の変化に敏感であること。研修を深めること。

生徒の変容（成長）から学ぶこと

生徒の成長から学び続けられる教職員であること。

地域とのふれあい・交流から学ぶこと。

地域との関わりを大胆に、積極的に築くことができる教職員に。